




琉球大学学術リポジトリ

Uterine artery embolization for postpartum and postabortion hemorrhage : A retrospective analysis of complications, subsequent fertility, and pregnancy outcomes

メタデータ	言語: 出版者: University of the Ryukyus 公開日: 2021-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Toguchi, Masafumi, 渡口, 真史 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48280

(別紙様式第7号)




論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	渡口 真史
論文審査委員	審査日	令和2年 2月 4日	
	主査教授	榎田 真一郎	 印
	副査教授	石田 肇	
	副査教授	中村 幸志	
(論文題目)			
<p>Uterine artery embolization for postpartum and postabortion hemorrhage: A retrospective analysis of complications, subsequent fertility, and pregnancy outcomes (産後出血、流産後出血に対する子宮動脈塞栓術：術後合併症、妊孕能に与える影響についての後方視的研究)</p>			
(論文審査結果の要旨)			
<p>上記論文に関して、研究にいたる背景と目的、研究内容および研究成果の意義と学術的基準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。</p> <p>この研究は、産後出血や流産後出血に対して施行される子宮動脈塞栓術において、臨床所見と血管造影所見から、術後合併症とその後の妊孕能について論じたものである。大量出血の症例では、子宮感染の発生が有意に多く、子宮動脈の塞栓深度に有意差はなかった。挙児希望のある患者の約60%が妊娠し、43.5%が生児を獲得した。生児を獲得した不妊治療中の75%に出産時に癒着胎盤や重度の腹腔内癒着等の出産時合併症があり、これらの結果から、出血の重症度に応じて塞栓深度を調整する必要性はないが、不妊治療患者において子宮動脈と卵巣動脈の吻合があればその塞栓を可能な限り避けた方がよいこと、妊娠率と生児獲得率は許容範囲内であったが、不妊治療を受けている患者では出産時の合併症が多いと結論づけている。</p> <p>本研究の意義は、子宮動脈塞栓術の主たる目的である止血と血行動態の安定に関して、十分に塞栓物質を注入することの妥当性を示唆していることである。血管造影所見について言及した報告はこれまでに無く、斬新な研究デザインである。</p> <p>さらに、一般的に子宮動脈塞栓術後の子宮内膜環境の変化から妊娠率の低下、流産率の上昇、出産時合併症のリスク増大がいられているが、本研究の結果はこれまで不十分であった子宮動脈塞栓術後の遠隔期における妊孕能への影響について言及した貴重な研究成果である。とりわけ、不妊治療患者における妊孕能への影響はこれまでに報告がなく、やむなく子宮動脈塞栓術を受ける患者にとって非常に有益な情報源となるであろう。</p> <p>今後は症例の蓄積により、産後出血に絞った塞栓程度の解析、卵巣刺激ホルモン値による卵巣機能不全の診断をより多くの症例で検討ができればよりよい研究デザインになると思われる。また、将来の妊孕能への影響に関しては、子宮動脈塞栓術を受けなかった場合の妊孕能との比較ができればさらによりよい研究になると思われる。</p> <p>以上により、本論文は学位授与に十分に値するものであると判断した。</p>			

- 備考
- 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
 - 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
 - 3 *印は記入しないこと。

(別紙様式第8号)

最終試験結果の要旨

報告番号	*課程博第	号	氏名	渡口 真史
論文審査委員	審査日	令和	2年	2月 4日
	主査教授	植田 真一	印	
	副査教授	石田 肇		
	副査教授	中村 幸志		
<p>(最終試験結果の要旨)</p> <p>最終試験は口頭による公開討論によって行い、以下の件について確認した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 提出論文の内容、意義について十分に把握していること。 2. 研究の背景、目的と方法について熟知していること。 3. 研究の結果について正しく理解していること。 4. 関連する国内外の研究をよく把握していること。 5. 研究成果の展望について確かな見解を有していること。 <p>審査の結果、これらに関する質問に対して十分満足する回答が得られたため、本学大学院博士課程を修了するに値すると判断し、最終試験は合格とした。</p>				

備考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書とすること。

2 *印は記入しないこと。